

最前線で活躍する平和フェロー

ロータリーでは平和フェローシップ（奨学金）を通じて、世界平和と開発の担い手となる人材を育て、平和推進の世界的ネットワークを築いています。2002年に創設されて以来、ロータリー平和センターでは1,300人以上のフェローを輩出。フェローたちは世界中で活躍しています。その中でも、さまざまな場面、国際機関などで平和推進に取り組む日本人のロータリー平和フェローを紹介します。

心理専門職として心に平和をもたらす

NPO法人TELLカウンセリング・サイコセラピスト 小川 昂子

現在の仕事について教えてください

私は今、心と体のつながりを大切にしている心理専門職、ダンス・ムーブメント・サイコセラピスト（DMP）として、主に在日外国人のカウンセリングを行っています。またワークショップや講演を通じて、より多くの人々がメンタルヘルスへの理解を深める手助けをすることも、私の大切な活動の一つです。

今の仕事を選んだ理由は？

以前、難民支援活動に従事していた際、紛争などの過酷な体験の影響でメンタルヘルスの不調に苦しむ多くの人の姿を目にしました。そこで、2015年にタイ・チュラロンコーン大学ロータリー平和センターでの3カ月集中型の平和フェローシッププログラムに参加。平和は、専門家や政府高官・政治家によってだけでなく、私たち一人一人が、セルフケアや身近な人々との関係を大切にするなど、日々の生活の中で実践できる小さな行動の積み重ねで実現されるという考え方を学びました。

知識をさらに深めようと、グローバル補助金奨学生としてイギリス・ロンドン大学ゴールドスミス校の修士課程でDMPを学びました。2017年の大学院修了



大学で講義する小川さん（左）

後は、現地の国立病院と難民支援団体にて、さまざまなトラウマや精神疾患を抱えた人々に対しDMPとして働き、経験を積みました。

平和構築のためにロータリアンができることは何だと思いませんか？

ロータリアンの皆さまには、引き続き平和構築への貢献を目指す人々をぜひ応援していただきたいです。平和フェローシップやグローバル奨学金は、同分野を目指す若者にとって貴重な機会です。今私があるのも、そのおかげです。国内外で活躍するロータリー学友に出会うたびに、ロータリーの人材育成への計り知れない貢献を実感します。

これからも、より平和な世界の実現に向けて私も自分の足元からコツコツと活動を続けていき、さらに臨床家として経験を積み、将来は難民の人たちの心のケアに携わる活動も再開したいと構想を温めています。

大学院修士課程修了後、NPO法人難民支援協会入職。2015年タイ・チュラロンコーン大学ロータリー平和センタープログラムに参加（スポンサー：第2650地区）。2015-17年度グローバル補助金奨学生としてイギリス・ロンドン大学へ留学（スポンサー：京都乙訓RC）。2019年10月より現職。

NPO法人TELL

TELL（東京英語いのちの電話）は、在日外国人コミュニティにおいて必要とされる国際レベルのサポートやカウンセリングサービスを提供し、国内で高まるメンタルヘルスケアの需要への対応に努めています。無料電話相談や専門家による面談カウンセリングを提供するとともに、メンタルヘルスに関するさまざまなワークショップも開催しています。



若者への支援が平和につながる

UNDP 駐日代表事務所民間連携・ユース担当コンサルタント 大阿久裕子

平和フェロー時の研究テーマは？

平和フェローとして、東アジアにおける若者向けの平和教育について研究しましたが、大学では政治学、統計学などさまざまな分野の教科を学びました。大学院の2年間は、自分の得意分野や進路を見つめ直す良い機会になりました。

現在の仕事について教えてください

現在は国連開発計画（UNDP）駐日事務所で、ユース・民間連携の事業を担当しています。UNDPでは、アジア太平洋地域25カ国で若者の社会イノベーションや起業を支援する「Youth Co.Lab（ユース・コラボ）」プロジェクトを行っています。担当者として、2019年に日本でもこのプロジェクトを立ち上げました。

今の仕事を選んだ理由は？

私はこれまでのキャリアを通じて若者支援に関わってきました。平和フェローになる前はNGOピースボートで平和教育プログラムづくりに携わり、日本と世界の若者を支援してきました。最近ユース・コラボで開催した若者向けの社会ビジネスコンテストでは、コロナ禍によって浮き彫りになった社会の課題に対する、ビジネスやアイデアが多く寄せられました。このように、若者とこれからの未来を共創していく取り組みにとってもやりがいを感じます。

平和構築のためにロータリアンができることは何だと思いますか？

平和フェローのプログラムなどを通じて、ロータリアンの皆さんは日々若者支援に関わっています。私自身も平和フェロー時代、そして卒業後も多くのロータリアンの方に応援していただき、とても心強く思いました。卒業生が取り組んでいるプロジェ



ユース・コラボについて語る大阿久さん

クトにロータリアンが積極的に関わり、支援している例を見ることがあります。こうしたロータリアンと平和フェローとの関わりが具体的なアクションにつながっていくのは素晴らしいことだと思います。ぜひこの機会に、UNDPおよびユース・コラボの若手起業家をもっと知って

いただき、今後何かのアクションにつながればうれしいです。

アメリカ・ウィスコンシン大学卒業後、国際交流NGOピースボートに就職。2012-13年度平和フェローとして国際基督教大学で学ぶ（スポンサー：第2550地区）。2015年よりUNDPスーダン事務所、2016年モルディブ国連常駐調整官事務所勤務、2019年7月より現職。

国連開発計画（UNDP）

（United Nations Development Programme= UNDP）

貧困の根絶や不平等の是正、持続可能な開発を促進する国連の主要な開発支援機関。人々や国々の能力を育てる活動を約170の国や地域で行う。UNDPにとって日本は最も重要な支援国の一つで、世界各国で80人以上の日本人職員が活躍し、人々の暮らしの改善に日々まい進しています。UNDP駐日代表事務所では、SDGs達成に向け、政府、ビジネスセクター、市民社会、教育研究機関などと協働し、さまざまな取り組みを進めています。

国連デー記念レセプションにモルディブ事務所の同僚と出席する大阿久さん（中央左上）



人と人との関わりは平和構築の原点

アフリカ・ニジェール国際移住機関パブリック・ヘルス・オフィサー 澤屋奈津子

平和フェロー時の研究テーマは？

デューク大学・ノースカロライナ大学（UNC）ロータリー平和センターで、貧困や紛争下での乳児の死亡率を下げるべく、出産直後から赤ちゃんを母親あるいは保護者が直接素肌に抱っこすることで効果が得られるカンガルーマザーケアを、過酷な環境下でいかに推進できるか研究しました。夏期実習では、カンガルーマザーケアの実践状況を把握するべく、さまざまな病院の産科を訪れた他、マラウイ北部の州立病院の産科に一定期間滞在しながら、プログラムの効果改善に取り組みました。

現在の仕事について教えてください

平和フェローになる前に勤めていたモーリタニアの国際移住機関（IOM）の上司から推薦を受け、アフリカ・ニジェールIOMで公衆衛生・医療に関するプロジェクトのコーディネーターとして働いています。これまでの研究や自分の興味分野として、特に出生届や予防接種など、新生児関連事業を可能な限りプログラムに取り入れるようにしています。ニジェールは国境に紛争地域があり、移動や人道支援が限られる地域も多く、現地の保健省と共にいかに保健衛生と医療支

国際移住機関（IOM）

世界的な人の移動（移住）の問題を専門に扱う唯一の国連機関。移民個人への直接支援から関係国への技術支援、移住問題に関する地域協力の促進、移住に関する調査研究などを通じて、移住にまつわる課題の解決に努めています。

現地リーダーたちとの会合（写真右上が澤屋さん）



援を行うか考え、日々取り組んでいます。

長期滞在をする国では地元のロータリークラブと連絡を取り、奨学生として学ばせてもらった感謝を伝えるようにしています。地元クラブから会合やイベントなどに招待された際には、可能な限り参加するよう心掛けています。

平和構築のために何が一番大切だと思いますか？

平和の構築は、人と人との関わりが原点です。さまざまな地域や環境下の人々が知り合い、そして友人となること。その人たちの地域で紛争などが起きた際、ロータリアンを含め人々が悲しみや憤りを分かち合うことで、平和に向けた気持ちが世界中の人々にもっと湧いてくるのだと思います。宗教や文化、考え方などに違いがあることを受け入れ、批判せずに共存の道を選んでいけるよう、家庭や学校での教育に貢献していくこともとても大切かと思います。

平和構築のために、組織としてのロータリーに期待することがあればご提案ください

ロータリーの強みは、世界中に現地のロータリアンがいること、そしてさまざまな職種の専門家が活躍していること。クラブ同士がつながることで紛争地域や貧困地域を支援するだけでなく、そういった地域から学び、双方が心や知識・情報を豊かにするために有用な関係をつくり、そして次世代に継承していけるような組織的な活動に期待します。

2006 - 07 年度国際親善奨学生としてイタリア・ボローニャ大学教育学部 0-3 歳児乳幼児教育学科へ留学後、セネガルの乳児院で 2 年間ボランティア。11~14 年在モーリタニア日本国大使館に派遣員として勤務後、IOMに就職。15 - 17 年度平和フェローとしてアメリカ・デューク大学・UNCで学ぶ（スポンサー：第 2760 地区）。17 年 8 月より現職。



リビアからの帰還民を支援